



Photostud

THE TOKAI TV HAI KINKO SHO

第61回 東海テレビ杯 金鯱賞 (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 67,000,000円 27,000,000円 17,000,000円 10,000,000円 6,700,000円
付加賞 714,000円 204,000円 102,000円



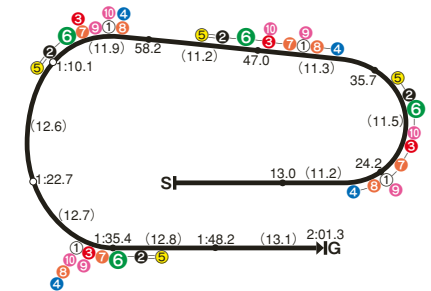
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 57%、牝馬2%減、2024.3.9以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2%増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1%増、2024.3.8以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1%増(ただし2歳時の成績を除く)

2025.3.16 中京 小雨・重 芝2000m (国際 指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	クイーンズウォーク	牝4	55	川田将雅	2:01.3	3-3-3-3	36.3	534(±0)	8.2④	中内田充正(栗東)	113
2	②	ホウオウビスケッツ	牡5	57	岩田康誠	ハナ	2-2-2-2	36.8	504(-2)	3.1①	奥村 武(美浦)	116
3	④	キングズパレス	牡6	57	池添謙一	2	10-10-9-7	36.0	502(-4)	23.9⑥	戸田博文(美浦)	112
4	⑤	デジエルト	牡6	57	武 豊	½	1-1-1-1	39.0	536(+4)	3.2②	安田翔伍(栗東)	111
5	⑦	ディーブモンスター	牡7	57	松山弘平	1	6-6-4-4	36.8	464(-2)	36.3⑨	池江泰寿(栗東)	
6	⑧	プログノース	牡7	58	西村淳也	2½	9-9-9-7	36.8	484(+10)	3.7③	中内田充正(栗東)	
7	⑩	マイネルモント	牡5	57	丹内祐次	1½	4-4-7-7	37.1	472(+2)	32.6⑧	高木 登(美浦)	
8	③	ライラック	牝6	55	石川裕紀人	3	5-4-4-5	37.8	446(+2)	25.4⑦	相沢 郁(美浦)	
9	⑨	ラヴェル	牝5	55	北村友一	3	7-7-6-5	38.3	480(+12)	11.7⑤	矢作芳人(栗東)	
10	①	アスクトゥバルテ	牡5	57	岩田望来	7	7-7-7-7	39.2	470(-6)	61.2⑩	梅田智之(栗東)	

単勝⑥820円(4%) 複勝⑥220円(4%) ②150円(1%) ④400円(7%) 格連②-⑥1,280円(6%)
馬連②-⑥1,180円(4%) ワイド②-⑥500円(4%) ④-⑥1,840円(23%) ②-④740円(8%)
馬単⑥-②3,040円(11%) 3連複②-④-⑥4,470円(18%) 3連単⑥-②-④28,480円(101%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
35.7 - 47.0 - 58.2 51.2 - 38.6

アラカルト

- ・川田将雅騎手はプログノースで制した23年以降金鯱賞3連勝、通算5勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算144勝目
- ・中内田充正調教師はプログノースで制した23年以降金鯱賞3連勝、通算4勝目。JRA重賞は本年2勝目、通算44勝目
- ・キズナ産駒はJRA重賞通算42勝目
- ・4歳馬の勝利は22年ジャックドールに続く通算27回目
- ・牝馬の勝利は95年サマニベッピン以来30年ぶり、通算8回目
- ・キングズパレスの佐々木大輔騎手は負傷のため池添謙一騎手に変更
- ・クイーンズウォークは大阪杯(GⅠ)に優先出走できる

クイーンズウォーク Queen's Walk

牝 黒鹿毛 2021.3.14生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・(有)サンデーレーシング 栗東・中内田充正厩舎
馬名意味・ロンドンのランベスブリッジとタワーブリッジ間の遊歩道

ウェイヴェルアベニューCAN系 F10-a

キズナ 青鹿毛 2010	ディーブインバウト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA
		ウインドインハーヘアIRE
	キャットクイルCAN 鹿毛 1990	Storm Cat
		Pacific Princess
ウェイヴェルアベニューCAN Wavell Avenue 鹿毛 2011	Harlington 黒鹿毛 2002	Unbridled
		Sereno's Song
	Lucas Street 栗毛 2004	Silver Deputy
		Ruby Park

5代までのインブリード：Mr.Prospector M5×M5

INTERVIEW

村上隆博 厩舎長(ノーザンファーム早来)

競走馬としての成長を感じました

昨年の秋に調整先であるノーザンファームしがらきに馬を見に行く機会がありましたが、骨格の良さに見合った筋肉がついてきた印象を受けました。今回は馬場が悪化したなかでのレースとなりましたが、一線級の牡馬を相手に力強く走ってくれただけでなく前残りの展開を差し切った姿に、競走馬としての成長を感じました。今年はG I を取ってみたいです。

N.Inaba



クイーンC、ローズSと重賞を2勝、オークスでも4着に食い込むなど、世代の一線級として活躍した昨年の本馬だが、最後の一冠・秋華賞はよもやの大敗(15着)。1月の小倉牝馬Sも早めのスパートから踏ん張り切れず、6着に敗れていた。それでも大敗明けの始動戦をひと叩きされて臨んだこの日は前2走の汚名を返上。強力な牡馬勢を持ち前の末脚で一蹴し、値打ちの高い重賞3勝目を挙げた。

降りしきる小雨のもとでゲートが開くと、スピードに乗ったデシエルトが躍り出る。だが、楽な手応えをキープしたまま直線に向き、馬場の真ん中へ持ち出されたクイーンズウォークはこれを上回る末脚を発揮。押し切り寸前の相手をキッチリと捉えてゴールに飛び込んだ。

父キズナ

北海道新栄町 株式会社ノースヒルズ生産 詳細はP.6参照

母ウェイヴェルアベニューCAN

北米20戦7勝(BCフィリー&メアスプリント・米^G₁、シャインアゲインS・米、BCフィリー&メアスプリント・米^G₁2着、ギャラントブルームH・米^G₂2着、ベッドオーロージズH・米^G₃2着、マディソンS・米^G₁3着)、17年輸入

グレナディアガーズ(18 牝父Frankel)持込 中央15戦3勝(朝日杯フューチュリティS^G₁、阪神C^G₂、阪神C^G₂2着2回、ファルコンS^G₂2着、NHKマイルC^G₁3着、京成杯オータムH^G₃3着)、英1戦0勝、種牡馬アストロフィライト(19 牝父ディーブインバウト)中央10戦2勝ソバズレーン(20 牝父ロードカナロア)中央3戦0勝

クイーンズウォーク 本馬(21 牝父キズナ)中央9戦4勝(金鯱賞^G₂、ローズS^G₂、クイーンC^G₂、オークス^G₁4着) 獲得総賞金190,640,000円
ウェリントンアーチ(22 牝父ドゥラメンテ)
(23 死産)
(24 牝父サートウルナーリア)

祖母ルーカスストリート Lucas Street

カナダ産 北米5勝(オンタリオファッションS・加L2着、シェイディウエルS・加L2着、スコッツアンナS・加L2着)
バスシェンバーク Bathsheba Park(10 牝父Harlington)韓4勝

ウェイヴェルアベニューCAN(11 前出)

スモールヴィクトリーズ Small Victories(13 牝父Marchfield)北米10勝
ソリティアズヴィジョンCAN(14 牝父Court Vision)北米1勝、輸入繁殖牝馬、オードーリン Oh Darlin(ジュベナイルフィリーズS・米2着)の母

曾祖母ルーバーク Ruby Park

カナダ産 北米4勝(シェイディウエルS・加、ジョージCヘンドリーH・加^G₃2着、バラードS・加2着2回、ウィムジカルS・加L3着)

ルーカスストリート Lucas Street(04 前出)

エメラルドクレセント Emerald Crescent(06 牝父El Prado)北米、バルバドス9勝

コーラルポイント Coral Point(11 牝父Graeme Hall)プエルトリコ11勝(プレンスイピカ賞2着)

母の父ハーリントン Harlington

アメリカ産 北米6勝(ガルフストリウムパークH^G₂)

[BMS代表産駒]グレナディアガーズ(前出)、クイーンズウォーク(本馬)

強力な牡馬勢相手に汚名返上の勝利

大阪杯の前哨戦と位置付けられている金鯱賞には、芝2000m戦で実績を残している好メンバーが集結。なかでも函館記念1着、秋の天皇賞の3着馬ホウオウビスケッツ、逃げの戦法に開眼してアンドロメダS、中日新聞杯を連勝中のデシエルト、2003〜05年のタップダンスシチー以来となる金鯱賞3連覇に挑むプログノシスが拮抗した支持を集めた。とはいえ勝利を飾ったのは3頭に次ぐ存在と目されていた4歳牝馬。昨秋のローズSの覇者クイーンズウォークが高らかに復活を宣言した。

降りしきる小雨のもとでゲートが開くと、スピードに乗ったデシエルトが躍り出る。だが、楽な手応えをキープしたまま直線に向き、馬場の真ん中へ持ち出されたクイーンズウォークはこれを上回る末脚を発揮。押し切り寸前の相手をキッチリと捉えてゴールに飛び込んだ。

クイーンC、ローズSと重賞を2勝、オークスでも4着に食い込むなど、世代の一線級として活躍した昨年の本馬だが、最後の一冠・秋華賞はよもやの大敗(15着)。1月の小倉牝馬Sも早めのスパートから踏ん張り切れず、6着に敗れていた。それでも大敗明けの始動戦をひと叩きされて臨んだこの日は前2走の汚名を返上。強力な牡馬勢を持ち前の末脚で一蹴し、値打ちの高い重賞3勝目を挙げた。

スナナリと先頭へ。しかしコーナーを回るあたりからガツンと行きたがつてしまった同馬は独り相撲の逃げを打ち、自分のリズムを守って2番手を進むホウオウビスケッツとの差がどんどん広がる。クイーンズウォークの川田将雅騎手は折り合いに専念して離れた3番手を追走。スタートで後手を踏んだプログノシスは、縦に長く延びた隊列の後方2番手で末脚を温存した。前半1000mの通過が58秒2と、道悪馬場重に速いラップを刻んで飛ばしたデシエルトは直線に向くとさすがに失速。4コーナーから差を詰めたにかかったホウオウビスケッツがギリギリと迫り、残り100m地点で先頭に躍り出る。だが、楽な手応えをキープしたまま直線に向き、馬場の真ん中へ持ち出されたクイーンズウォークはこれを上回る末脚を発揮。押し切り寸前の相手をキッチリと捉えてゴールに飛び込んだ。